



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラク：アラブ諸国との関係の見直し

(4月4日付サバー八紙)

4日付現地サバー八紙は、政府関係筋の発言を引用し、今後のイラク・アラブ諸国との関係の概観について報じている。

1. 先日ドーハで開催された第21回アラブ連盟首脳会議へのマリーキー首相の出席は、大きな成果をもたらし、イラクとアラブ諸国の関係を一層促進させるものとなった。今後数日間の間、ヨルダンとシリアの首相がイラクとの間で重要な協定を署名するためにイラクを訪問する予定である。一方でイーサウィー副首相のサウジ訪問が予定されている。
2. アタリー・シリア首相のイラク訪問に際しては、マリーキー首相との間で「貿易、石油及びガス分野での協力に関する協定」、「水資源分野における調整に関する協定」への署名が行われる予定である。また、ザハビー・ヨルダン首相のイラク訪問に際しては、両国貿易関係の拡大、投資および石油に関して協議が行われる予定である。昨年ヨルダン国王のイラク訪問の際に交わされた「キルクーク油田からの日量3万バレルを1バレル当たり22ドルで供給する合意」に関わる新しい合意に署名が行われるのではないかとの見通しもある。同合意に関しては、昨年9月から実施され、4月初旬までに約200万バレルの原油がヨルダンに供給されている。
3. イーサウィー副首相のサウジ訪問は、「ウムラ」のためだが、同訪問の期間中、サウジ側要人と会談を行うことが予定されている。先月ルバーイー国家安全保障担当首相補佐官は、間もなくサウジとの間で身柄拘束者の問題を解決するための署名が行われると述べた。